

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論 (2 単位)	3. 科目番号	SNMP2302 SCMP2302 SPMP2302 SJMP1101 PSMP2402						
2. 授業担当教員	田中 良幸								
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係									
7. 講義概要	<p>急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。</p> <p>授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。</p>								
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 <p>現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。</p>								
9. アサignment (宿題) 及びレポート課題	<p>日ごろから新聞やテレビニュース等のマスコミを通して、今、社会はどう動いているのかを、日本のみならず世界に目を向けて動きを理解しておくことが大切です。特に、子どもの生活と家庭にどのようなことが起きていることに関心を持つことが期待されます。課題レポートを学期初めから長期休みをはさんで求めます。感想文とは違います。問題を明確化して、自分の意見を書くことが求められます。その他、適宜、レポートの提出を求めます。レポート形式で書くことに慣れていきましょう。決められたスタイルがあるので、それを習得できるようにしてください。レポートは締切を厳守しての提出、独自性や考察の適切さ等で加点されます。授業では、随時、講義課題に関しての発言やグループディスカッションを求めます。「授業への貢献度」を重視するので、グループ討議の場での積極的な関わりを期待します。</p> <p>授業計画は進捗等によって変更があります。</p>								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』第7版 中央法規出版。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童家庭福祉の全体像を、講義やグループ討議、レポート作成を通して理解し、説明ができるようになる。 2. グループ活動を通じて、思考力を高め、問題発見・問題解決力などの能力を培う。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の40%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)	総合点の30%	2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)	総合点の30%	3 課題レポート	総合点の40%
1 授業への積極的参加 (ディスカッション・発表)	総合点の30%								
2 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査)	総合点の30%								
3 課題レポート	総合点の40%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>「児童福祉論」は「子ども家庭福祉論」という科目名で最近では呼ばれることがある。なぜ、「子ども」となり、そこに「家庭」が付くようになったのだろうか、また、グローバル時代の今日、どのような視点から子どもと家族を理解する必要があるのだろうか。国や家庭によって子どもの養育や社会の役割等の課題は変わることがあります。日本の子育て環境の長所や改善点等を探求をしてみましょう。学びのきっかけは、こうした素朴な疑問から出発します。必要に応じて、映像を活用したり、レジュメを用意しますが、欠席した回のレジュメが欲しい場合など、気軽に研究室に入室してください。</p>								
13. オフィスアワー	別途研究室に掲示する								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	ガイダンス：授業の概要と進めかた	事前学習	シラバスを熟読しておく。						
	【課題図書への提示1】グループ活動導入	事後学習	「子育て」と「育ち」に対するイメージを言語化し、書き出す。						
第2回	子どもの権利と人権：今、世界で子どもに何が起きているのか グループ討議	事前学習	「人身売買」「子ども兵士」「代理出産」という言葉について調べておく。						
		事後学習	「子どもの権利条約」を確認し、現代社会における国や地域での子どもの置かれた立場の違いをまとめておく。						
第3回	子どもの歴史①：世界史にみる子どもの生活状況(虐殺・	事前学習	「エリザベス救貧法」「ワークハウス」「子ど						

	虐待・誘拐等)		もの誕生」「ナチ・ホロコースト」「人身売買」「子ども兵士」等を調べる。
		事後学習	「子ども」「青少年」「成人」の定義、世界史に見る子どもが置かれた状況を考察する。
第4回	子どもの歴史②：日本史にみる子どもの生活状況 古代、中世までの日本 グループ討議	事前学習	日本の古代、中世の子どもの生活を調べてみよう 昔話の中の子ども等を自分で調べておく。
		事後学習	日本の近世以前の子どもの生活の様子を考察し、整理する。
第5回	子どもの歴史③：日本史にみる子どもの生活状況 近代以降の子どもの置かれた社会的状況	事前学習	明治以降の日本の子どもの生活を調べてみよう
		事後学習	昭和時代までの子どもの歴史を考察し、整理する。
第6回	現代社会と子ども・家庭 グループ討議	事前学習	現代の子どもの生活の特徴をチェックする。
		事後学習	現代までの子どもの置かれた歴史をまとめ、考察する⇒課題をレポートにまとめる
第7回	何らかの配慮を必要とする(障害等)子どもと家庭支援 子ども福祉関連法・制度1 法律から見た子どもの位置づけを戦後の変化を中心に グループ討議	事前学習	「ヒルコ」「福助」という言葉について意味を調べる。
		事後学習	「障害」のある子どもとその保護者の生活とその課題を理解し、どのような支援が必要となるかを考察する。
第8回	子ども福祉関連法・制度2 児童虐待防止法の変遷と課題 ビデオ鑑賞1(子どもの虐待関連)	事前学習	社会福祉小六法で児童福祉法の概要を読み、児童相談所に関連する資料を検索しておく。
		事後学習	「子どもの貧困」に関する資料を集めて読んでおく
第9回	子ども福祉関連法・制度と関連機関；福祉・保健1 ビデオ鑑賞2(DVを中心とした家庭の問題)	事前学習	児童虐待について調べてみる。
		事後学習	児童虐待防止法と児童福祉法の関連をまとめる。
第10回	子ども福祉関連法・制度と関連機関：福祉・保健2	事前学習	関連法規を読んで、項目を理解しておく。
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスについて理解する。
第11回	援助活動の実際1 子どもへの様々な在宅支援 子どもの貧困問題を中心に	事前学習	社会福祉六法体制の内訳は何か、書き出しておく。
		事後学習	課題図書の提示
第12回	援助活動の実際2 社会的養護の制度を中心に ビデオ鑑賞3：子どもの置かれた状況：貧困・売買等	事前学習	就学前の子どもの養育制度の概要を調べておく。
		事後学習	学生前の子どもの養育困難の支援と効果をまとめる。
第13回	グループによる課題報告発表1	事前学習	社会的養護について事前に自分で概要を調べておく。
		事後学習	子ども家庭を対象としたサービスを整理する
第14回	グループによる課題報告発表2	事前学習	テーマについて各グループで発表準備をしておく。
		事後学習	他グループの発表を含めて要点を確認する。
第15回	まとめ グループ討議により、今、世界の中で何が起きているのか。日本の重点課題は何かを確認するとともに、将来、保育士、幼稚園教諭として必要なことを確認する	事前学習	全授業を通してのキーワードの確認と不明点の整理。
		事後学習	全15回を振り返り、学習目標が達成できたかどうかを確認し、児童・家庭福祉論IIに向けて準備をする。